

## 下野市デマンドバス検討課題

	検討課題	現 状	検 討 事 項
1	運行車両	①現行の車両の走行距離は30年度末で30万Kmを超えている。 ②1台あたりの1回の運行利用者数が3人程度	①現行車両での継続運行は難しいため、車両の新規購入や事業者の借上等についての検討。 ②車両の型(セダン型や今より定員の少ないワゴン車型)についての検討。
2	運行エリア	市内を合併前の旧行政区ごとに3つのエリアに分けて運行しているが、JR自治医大駅周辺等入り組んでいて境界が判別しにくい地域や、運行上非効率な地域がある。	1時間単位での運行を実施するという観点から、エリアの廃止は難しいと考えられるが、より効率的な運行を実施するために、JR線を境として分けるなど、運行エリア区分見直しの検討。
3	運行台数	利用登録者の増加に伴い、利用希望時間帯が重複することが増えたため、利用者のニーズに応えられないケースが多くなっている。	車が自由に使えない人が安全に安心して外出・移動できる生活交通、安全運転の観点からも、1度の運行で運べる人数が限られるため、利用促進のためには現行の運行台数3台を4台に増やす等の対策の検討。
4	直接乗入施設	エリアを超えての利用には、原則として共通乗継施設での乗り換えが必要だが、利用者の8割が70歳以上の高齢者であり、待ち時間等考慮する必要がある。	現在、利用者数が多い公的な施設として、市役所・ゆうゆう館・自治医科大学附属病院を他のエリアからも乗入れできる直接乗入施設としているが、待ち時間の短縮を図る等の観点から直接乗入施設の見直しや、利用者が自治医大を上回る石橋総合病院の追加等の検討。
5	市外医療機関への乗り入れ	市内医療機関の利用が多いなか、うつのみや病院や上三川病院等市外医療機関への送迎を希望する声があるが、時間内運行を実施しているため、市外への乗り入れが難しい状況にある。	路線バス等の公共交通が無い地域、交通空白地域でこそ デマンド交通が必要になるため、市外医療機関へのポイント的な乗入れが可能かどうかの検討。
6	コミュニティバス(定期バス)運行	平成24年3月31日まで バス(ふれあい号・きらら号)が運行していたが、利用者数が少ないため廃止になった。他市町のデマンド交通への移行も同様な理由であるが、デマンド交通では時間が不定期であることや事前予約が必要なため、定時で乗降可能な路線バスの運行を求める声があると共に、市民の税金の無駄遣いになることは反対という意見もある。	定期運行にはそれなりの利点もあるため、デマンド交通の充実と利用促進を目標として継続させていくとともに、10月に運行開始を予定している1市2町広域連携バスの3年間の実証運行の状況を踏まえながら、新たなコミュニティバス運行については、その必要性、採算性、費用対効果等の検討。